

自分の可能性を信じて

鳥取 → 横浜 1泊2日の旅

定年退職を2年後に控え、脳梗塞で倒れたその瞬間からIさんの生活は一変した。何不自由なかった生活から、病院での長い入院生活。退院しても1日のほとんどをベッドで過ごすことになった。

しかし一度は希望を失いながらも、現実と向かい合い、少しでも明るい未来を見出すためにも、かわいがっていた甥っ子の結婚式に参加したいと希望を持った。

Iさんのお住まいは鳥取県で、結婚式の会場は横浜。車で行くのか、電車で行くのか、飛行機で行くのか、ケアマネジャーさん、担当ヘルパーさんやご親族と長い議論を交わした。

ご家族のご意見は「無理だ、あきらめた方がいい」ケアマネジャーさんは、「せっかくの機会だし、リハビリを兼ねて行ってみては」

私たちは、「座位の保持が難しいため、リハビリをしていただいた上で、数時間の座位保持が可能になれば行ける」と、意見が分かれた。

Iさんご自身には、「めったにないこの機会、自分自身行けるかどうかを試してみたい。」というお気持ちがあった。そこで、「リハビリに行って、座位体制の保持が出来るように頑張



る」とおっしゃり、結婚式の2週間前に最後の決断をする、ということで話がまとまった。

どちらに転ぶかわからない。その中で、横浜中華街に行きたい、池袋にも行ってみたいと、希望がなかった生活から希望が見える生活に変わり、リハビリに励んだ分、そのまま成果として表れ出した。ケアマネジャーさんの温かい支援も後押しした。デイサービス等でも積極的に訓練をとり入れてくださるだけでなく、頻繁に私たちに状況を報告してくださった。

出発当日、リクライニング車いすでの移動。飛行機以外は基本的に横になっての移動。飛行機では、前に倒れないように、エスコートヘルパーが横に座り、リクライニング車いすに

移動するまで抱えた。空港内や飛行機内でも、航空会社に事前に連絡を入れておくことで、最大限の配慮をしていただくことができた。

倒れてからの初めての宿泊をとまなう外出。到着した夜は非常に疲れていたが、東京支社に勤めている、Iさんの後輩にあたる方が訪ねてきてくれると、急に元気になり、楽しそうに食事をとられた。

翌日、ホテルから小一時間走らせ到着した結婚式会場では、遠方からわざわざ来てくれた、と新郎新婦が駆け寄って喜んでくださった。

鳥取に帰ったIさん、別れ際に一言。「次は韓国やで」



担当者コメント

韓国、是非リハビリを頑張ってください。その時は私がまたエスコートします。

介護度 要介護5

年齢 58歳

行先 神奈川県横浜市

同行 エスコートヘルパー1名

時間

行程

1日目

エスコートヘルパーお迎え
ご自宅出発
羽田空港 到着
新横浜国際ホテル到着
ホテルにて休憩
ホテルにて食事
就寝

2日目

ホテル出発
結婚式場 到着
親族紹介／結婚式／披露宴
結婚式場 出発
羽田空港着
鳥取空港到着
ご自宅に到着

